

2016 年度活動報告 学部授業：日本語Ⅰ～Ⅳ（西宮上ヶ原）

高村 めぐみ（関西学院大学日本語教育センター）

長谷川 哲子（関西学院大学経済学部）

内藤 真理子（関西学院大学日本語教育センター）

森本 郁代（関西学院大学法学部）

1. 日本語Ⅰ 授業報告

【水曜授業】

大学で必要とされるアカデミックなレポート作成の基本と書き方の手順を理解し、与えられた情報（新聞記事）をもとに「論点」が立てられるようになることを目標としたクラスである。情報の読解は宿題とし、授業ではピア活動によるプロセスリーディング、ジグソーリーディングを通して、理解を深めるための活動を多く取り入れた。また、読んだ情報から自分なりの問いと主張をたてるために、グループでのディスカッションも多く行った。

【金曜授業】

大学生活で必要とされる口頭能力の導入として、以下の活動を行った。

- 1) 新聞記事等の資料を読解し、内容をまとめて発表する
- 2) 選定したテーマに基づき、資料を収集し、ポスター発表を行う

上記1)では、発表の評価ルーブリックを受講生自らが作成し、自らの口頭表現能力の把握をめざした。2)では、成果発表として、全クラス合同でポスター発表を行った。

2. 日本語Ⅱ 授業報告

【水曜授業】

日本語Ⅰで学んだことを基本とし、さらなるレポート作成能力の向上を目標に授業を展開した。主として新書（橋本俊詔『日本の教育格差』、岩波新書）を読み、その中から論点を立て、レポートを書くという活動を行った。執筆の際には、より学術的な表現を意識したレポートを作成するよう指導した。また、新書以外に主張の論拠となる資料を自分で探し、レポートに組み入れる方法についても学んだ。

【金曜授業】

日本語Ⅱでは対話を中心とした口頭表現に重点を置いた。合意形成を目指したグループディスカッションを円滑に進められることを最終的な目標とし、望ましいディスカッションのありかたに対する共通意識を持つような活動も実施した。まとめの活動として、ディスカッションの内容をまとめた発表を行った。

3. 日本語Ⅲ 授業報告

【水曜授業】

大学におけるアカデミックな活動に積極的に参加するために必要な力（批判的思考力、情報活用力、コミュニケーション力）を向上させることを目標とした。授業期間の前半から中盤にかけては、ディベートの準備を進めつつ、ミニディベートで経験を重ね、ディベートへの理解を深めた。後半には、クラス対抗の試合を行い、最後に授業全体の振り返りを行った。

【金曜授業】

新書をテキストとして、ピア・リーディング活動を行い、互いの見方や解釈を共有することでテキストの理解を深めるとともに、意見や批評の論点を発見する力の養成を目指した。併せてレジюмеと要約の作成を課し、内容を簡潔に要約する力と、理解した内容を分かりやすく説明する力の育成を行った。学期末には総仕上げとして1500字程度テキスト批評文を書かせ、批判的思考力の養成とともに、意見や批評を書く能力の向上を図った。目標はある程度達成されたが、ピア活動に積極的でない学生は能力が伸びず、こうした学生にピア活動の必要性・意義をどう伝えるかが課題である。

4. 日本語Ⅳ 授業報告

テーマを自分で設定し、5000字程度の小論文の作成とプレゼンテーションを行うことで、総合的な日本語能力及び論理的思考力、批判的思考力を養うことを目指した。水曜日と金曜日の担当者が連携し、テーマの検討、先行研究の調査、アンケート調査の実施と分析を行い、それを踏まえて小論文を書くまでの各段階を1学期間かけて実施した。アンケートの作成や集計・分析のサポートとして、各クラス1名のラーニング・アシスタントを採用した。学生の授業評価もおおむね良く、形式面で整った論文が多かったが、考察の深さなど内容面を以下に高めるかが課題である。また、ピア活動に学生が意義を見出し、積極的に参加できるような活動のデザインも必要である。